

朝布麻須等六
其草深野

1

玉たま冠きはる春
内うち乃のおほ大野の介に
馬うま數なめ而て
朝布麻須等六
其草深野

卷一四
間人老

1

潮毛可奈比沼
今者許藝乞菜

2

熨田津介
船乘世武登
月待者
潮毛可奈比沼
今者許藝乞菜

卷一八
額田王

2

野守者不見哉

3

茜草指
武良前野逝
標野行
野守者不見哉
君之袖布流

卷一〇
額田王

3

芳野吉見与
良人四来三

4

淑人乃
良跡吉見而
好常言師
芳野吉見与
良人四来三

卷一七
天武天皇

4

京都乎遠見
無用尔布久

5

採女乃
袖吹反
明日香風
京都乎遠見
無用尔布久

卷一五一
志貴皇子

5

見乍思奈

許湍乃春野乎

6

巨勢山乃こせやまの
列と椿つらつらつばき
都良つらつらとこ介に
見乍思奈みつしのはな
許湍乃春野乎こせのはるの

坂門人足さかどのひとり
卷一—五四

6

得難尔為云

安見兒衣多利

7

吾者毛也われはもや
安見兒得有やすみこえたり
皆人乃みなひと
得難尔為云えかてにすといふ
安見兒衣多利やすみこえたり

藤原鎌足ふじわらのかまたり
卷二—九五

7

吾立所沾

山之四附二

8

足日木乃あしひきの
山之四付二やまのしづくに
妹待跡いもまつと
吾立所沾わがたちぬれし
山之四附二やまのしづくに

大津皇子おおつのみこ
卷二—一〇七

8

真幸有者

亦還見武

9

磐白乃いはしろの
濱松之枝乎はまつがえを
引結ひきむすび
真幸有者まさきくあらば
亦還見武またかへりみむ

有間皇子ありまのみこ
卷二—一四一

9

妹乎将求

山道不知母

10

秋山之あきやまの
黄葉乎茂もみちをしげみ
迷流まとひぬる
妹乎将求いもをもとめむ
山道不知母やまぢしらすも

柿本人麻呂かきのもとひとまろ
卷二—二〇八

10

情毛思努尔
古所念

11

不盡能高嶺尔

12

雪波零家留

淡海乃海 あふみのうみ
夕浪千鳥 ゆふなみちどり
汝鳴者 ながなげば
情毛思努尔 こころもしのに
古所念 いにしへおもほゆ

11

薰如

今盛有

13

青丹吉 あきによし
寧樂乃京師者 ならのみやこは
咲花乃 さくはなの
薰如 いほいかに
今盛有 いまざかりなり

13

平城京乎

御念八君

14

藤浪之 ふちなみの
花者盛介 はなはざかりに
成来 なりにつけり
平城京乎 ならのみやこそ
御念八君 おもほすやきみ

14

濁酒乎

可飲有良師

15

驗無 しるしなき
物乎不念者 ものをおもはずは
一坏乃 ひとつきの
濁酒乎 にごれるさけを
可飲有良師 のむべくあるらし

15

柿本人麻呂 かきのもとのひとまろ
卷三一二六六

山部赤人 やまべのあかひと
卷三一一三八

12

小野老 おののおゆ
卷三一一三八

12

大伴旅人 おほとものたひと
卷三一一三三〇

13

大伴旅人 おほとものたひと
卷三一一三三八

14

大伴旅人 おほとものたひと
卷三一一三三八

15

此照月者
滿闕為家流

世間者よのなかは
空物跡むなしきもの
將有登曾あらむとそ
此照月者このてるつきは
滿闕為家流みちかけしける

作者未詳
さくしゃみしやう

卷三—四四二

心者雖念
直不相鴨

三熊野之みくまの
浦乃濱木綿うらのばまゆふ
百重成ももへなす
心者雖念こころはもへど
直不相鴨ただにあはぬかも

柿本人麻呂
かきのもとのひとまろ

卷四—四九六

君尔吾戀
情示左祢

二寶鳥乃にほどりの
潜池水かつくいけみづ
情有者こころあらば
君尔吾戀きみにわがこふる
情示左祢こころしめさね

大伴坂上郎女
おおとものさかのうえのいらつめ

卷四—七二五

奈良乃美夜古尔
由吉帝已牟丹米

多都能馬母たつものまも
伊麻勿愛豆之可いまもえてしか
阿遠尔与志あをによし
奈良乃美夜古尔ならのみやこに
由吉帝已牟丹米ゆきてこむため

大伴旅人
おおとものたびと

卷五—八〇六

奈岐互伊奴奈流
烏梅我志豆延尔

波流佐礼婆はるされば
許奴礼我久利豆こぬれがくれて
宇具比須曾うぐひすそ
奈岐互伊奴奈流なきていぬなる
烏梅我志豆延尔うめがしづえに

山口若麻呂
やまぐちのわかまろ

卷五—八二七

清河原尔
知鳥數鳴

21

ぬばたまの
鳥玉之
よのふけぬれば
夜乃深去者
ひさきおふる
久木生留
きよきはらに
清河原尔
ちどりしばなく
知鳥數鳴

やまへのあかひと
山部赤人
卷六一九二五

21

水鳥二四毛有哉
家不念有六

22

たまもかる
玉藻苅
からにのしまに
辛荷乃嶋介
しまみする
嶋廻為流
うにしもあれや
水鳥二四毛有哉
いへおもはざらむ
家不念有六

やまへのあかひと
山部赤人
卷六一九四三

22

照有月夜乃

23

見者悲沙

ぬばたまの
鳥玉之
よぎりのたちて
夜霧立而
おほほしく
不清
てれるつくよの
照有月夜乃
みればかなしさ
見者悲沙

おおわしものさかのうえのいらつめ
大伴坂上郎女
卷六一九八二

23

人乃眉引

24

所念可聞

ふりさけて
振仰而
みかづきみれば
若月見者
ひとめみし
一目見之
ひとのまよびき
人乃眉引
おもほゆるかも
所念可聞

おおとものやかもち
大伴家持
卷六一九九四

24

星之林丹

25

榜隱所見

あめのうみに
天海丹
くものなみたち
雲之波立
つきふね
月船
ほしのはやしに
星之林丹
こぎかくるみゆ
榜隱所見

かきものひとまろかしゆう
柿本人麻呂歌集
卷七一〇六八

25

明少

夜者更下乍

26

うなはらの
海原之
みちとほみかも
道遠鴨
つくよみの
月讀
ひかりすくなき

明少

よはふけにつつ
夜者更下乍

さくしゃみしよ
作者未詳

卷七一一〇七五

26

弓月高

雲立渡

27

あしひきの
足引之
やまがはのせの
山河之瀬之
なるなへに
響苗介
ゆつきがたけに
弓月高
くもたちわたる
雲立渡

かきのもとひとまろかしゅう
柿本人麻呂歌集
卷七一一〇八八

27

毛要出春尔

成来鴨

28

いはしる
石激
たるみのうへの
垂見之上乃
さわらびの
左和良妣乃
もえいづるはるに
毛要出春尔
なりけるかも
成来鴨

しきのみこ
志貴皇子
卷八一一四一八

28

可伎數者

七種花

29

あきのの
秋野介
さきたるはなを
咲有花乎
およびをり
指折
かきかぞふれば
可伎數者
ななくさのはな
七種花

やまのうえのおくら
山上憶良
卷八一一五三七

29

鳴奈流鹿之

音遙者

30

あきはぎの
秋芽之
ちりのまがひに
落乃乱介
よびたてて
呼立而
なくなるしかの
鳴奈流鹿之
こゑのはるけ
音遙者

ゆはらのおわきみ
湯原王
卷八一一五五〇

30

置此庭尔
蟋蟀鸣毛

31

今日零雨尔
落香過奈牟

32

浮去良武
山河之瀬尔

33

梅乎插頭而
此間集有

34

立座
妹念

35

暮月夜ゆふづくよ
心毛思努尔こころもしのに
白露乃しらつゆの
置此庭尔おくこのにはに
蟋蟀鸣毛こほろぎなくも

湯原王ゆはらののおきみ
卷八一五五二

31

明日香河あすかがは
逝廻丘之ゆきみるをかの
秋芽子者あきはぎは
今日零雨尔けふふるあめに
落香過奈牟ちりかすぎなむ

丹比国人たじひのくにひと
卷八一五五七

32

足引乃あしひきの
山之黄葉やまのみちば
今夜毛加こよひもか
浮去良武うかびゆくらむ
山河之瀬尔やまがはのせに

大伴書持おおとものふみもち
卷八一五八七

33

百礮城之ももしきの
大宮人者おほみやびとは
暇有也いとまあれや
梅乎插頭而うめをかぎして
此間集有ここにつどへる

作者未詳さくしやみしやう
卷十一八八三

34

春楊はるやなぎ
葛山かづらぎやまに
發雲たつくもの
立座たちてもあても
妹念いもをしそおもひ

柿本人麻呂歌集かきのものひとまろかしゅう
卷十一一二四五三

35

君乎不言者
念衣吾為流

36

君尔戀毛
我之心柄

37

加奈思吉兒呂我
尔努保佐流可母

38

和礼尔余須等布
麻末乃互胡奈乎

39

伎弥之布美互婆
多麻等比呂波牟

40

斑鳩之
因可乃池之
宜毛
君乎不言者
念衣吾為流

36

我情
燒毛吾有
愛八師
君尔戀毛
我之心柄

37

筑波祢介
由伎可母布良留
伊奈乎可母
加奈思吉兒呂我
尔努保佐流可母

38

可都思加能
麻末能手兒奈乎
麻許登可聞
和礼尔余須等布
麻末乃互胡奈乎

39

信濃奈流
知具麻能河伯能
左射礼思母
伎弥之布美互婆
多麻等比呂波牟

40

卷十二一三〇二〇
作者未詳

卷十三一三二七一
作者未詳

卷十四一三三五二
東歌・常陸国

卷十四一三三八四
東歌・下総国

卷十四一三四〇〇
東歌・信濃国

麻具波思兒呂波

多賀家可母多牟

之もつげの野の能
美かもの夜麻能
許ならの須す
麻ぐはしころは
多賀がけかもたむ

東歌・下野国

卷十四一三四二四

安礼波伊多良牟

祢度奈佐利曾祢

安だたら乃の
祢にふ須思之能
安里都と毛
安礼波伊多良牟
祢度奈佐利曾祢

東歌・陸奥国

卷十四一三四二八

安我多知奈氣久

伊伎等之理麻勢

君之由久
海邊乃夜杼
奇里多と婆
安我多知奈氣久
伊伎等之理麻勢

作者未詳

卷十五一三五八〇

美知乃久夜麻尔

金花佐久

須賣呂伎能
御代佐可延牟等
阿頭麻奈流
美知乃久夜麻尔
金花佐久

大伴家持

卷十八一四〇九七

下照道尔

出立媿孀

春苑
紅くれない介保布
桃花もものばな
下照道尔
出立媿孀

大伴家持

卷十九一四一三九

朝己藝思都追
唱船人

46

朝己あきどに
朝床あきどに
聞者きけはるけし
射水河いみづかは
朝己あきど藝思ぎし都追つ
唱船人うたふなびと

大伴家持

卷十九一四一五〇

46

韓國邊遣

47

大船おほふねに
真梶まかぢ繁貫しじぬぎ
此吾子乎このあこを
韓國邊遣からくにへやる
伊波いは敝神へかみ多智たち

光明皇后

卷十九一四二四〇

47

伊波敝神多智

許能暮影尔

48

春野はるのに
霞多かすみ奈毗なび伎ぎ
宇良悲うらがなし
許能暮影尔このゆふかげに
鶯うぐいす奈久母なくも

大伴家持

卷十九一四二九〇

48

鶯奈久母

情悲毛

49

宇良うら宇良うら良らに
照流てれる春日はるひに
比婆理安我里ひばりあが
情悲毛こころかなしも
比登里志於母倍婆ひとりしおもへば

大伴家持

卷十九一四二九二

49

比登里志於母倍婆

互里氏多互流波

50

見和みわ多世たせ婆ば
牟加都乎能倍乃むかたつをのへ
波奈はな保比ほひ
互里氏多互流波てりてたてるは
之伎多我こはしきたが都麻つま

大伴家持

卷二十一四三九七

50

之伎多我都麻